

あらためて中部臨空都市「前島」を問う

中部国際空港=セントレアについては、3月15日のレポートで「駆け足チェック」を行った。そこでも書いたが、まずは順調な滑り出しの空港とは対照的に、中部臨空都市の「前島」は苦戦をつづけている。

中部臨空都市は空港島の一部と対岸部の「前島」を愛知県企業庁が開発するものだ。空港島の契約は順調のようだが、「前島」のほうは進出企業への優遇策にもかかわらず、成約はまだ1件にとどまっている。とにかく引き合いが少なく、まったく売れないのであ



る。4月20日付の日本経済新聞によると、現在、8.5%を先行して販売している前島地区(123%)では、全体で約70%を分譲・賃貸用地化する計画である。企業庁は「常滑市に少ないショッピングセンターや大型家具店なども誘致したい」という。今後はイベントにも一時的に貸し出す。

こうした深刻な事態は予測できたことであり、関西空港の「りんくうタウン」の二の舞になると警鐘を鳴らしてきた。「りんくうタウン」は開港から10年経っても3割以上の土地が契約できず、これまでに1200億円以上の税金が投入されている。さすが大阪府も撤退宣言を出して、事業の収束に奔走している。

なぜ「前島」開発なのか。1999年10月30日付の中日新聞に次のように書かれている。「前島は当初、愛知県の空港構想に入っていなかった。しかし、常滑市や地元経済界が『空港は騒音と埋立を伴う迷惑施設でもあり、受け入れは関連用地の開発が条件』と強く主張した経緯があるためだ」常滑沖に空港を建設するために、地元を説得する「材料」として前島開発が浮上したのである。2000年6月の公有水面埋立にかかわる環境庁長官意見のなかで、「空港対岸部地域開発用地の商業・業務用地の埋立について、埋立工事に先立って、埋立区域における用地の確実な需要を確認」することを求めている。それから5年が経過したが、関係者の意見を聞きたいものだ。

(4月25日 記)